

人間の責任と土砂災害対策

いわぬまにしちゅうがっこう
岩沼西中学校

一年

まかなえ
蒔苗

さあや
咲絢

私の通う中学校の近くには、今にも崩れて
きそうな崖があります。そんな崖を見るたび
に、今、崩れてきたらどうしよう、と思うの
です。

このように、私の身近にも実は危険は潜ん
でいます。土砂災害の被害に遭う前に、事前
にどんな対策を立てておく必要があるでしょ
うか。

私は、土砂災害と聞くと、大雨によっ
て起
こる土砂崩れを想像します。その土砂崩れの
被害に遭わないためには、大雨の予報が出た
ときに山などの斜面に近づかないことです。
土砂災害とは、地震や大雨などにより、土
砂崩れや崖崩れ、土石流や地滑りなどが生じ、
人の生命や財産が脅かされることを言います。
私は、実際に土砂災害に遭ったことはありま
せんが、津波などと同じような恐ろしい災害
だと思っています。

去年の台風十九号は、各地に大変な被害を
もたらしましたが、調べてみると、全国で約
九五十件の土砂災害を発生させています。そ
のうち二五四件は私の暮らす宮城県で発生し
ました。

私の家は土砂災害の被害には遭いませんで
したが、台風の日之夜は、家の前の道路が泥
の川のようになり、また、翌日の朝に田んぼ
を見ると、一面、湖のようになっていました。

その数日後、山の上の施設に用事があり、

向かう途中で、道路脇の斜面が崩れている光
景を目にしました。台風の傷跡でした。決し
て大きく崩れているわけではなかつたのです
が、赤土がむき出しとなり、触れればさらに
崩れてきそうで、恐ろしく思いました。その
光景は今でも覚えていています。

土砂災害は、地震によつて起こるものと大
雨によつて起こるものがあると調べて分かり
ました。地震によつて起こる土砂災害は、地
震がいつくるか分からないので、事前に避難

することはいけません。しかし、大雨によつて起こる土砂災害ならば、
一、大雨が降るみたいだし、家が山に近いから避難の準備をしておくか。
などと言つて、ある程度の対策は、事前にてきます。

私は、土砂災害が起きる前に自分たちや地域の人たちと協力してできる対策を二つ考えました。

一つ目は、大雨によつて起こる土砂災害に對する対策です。山のもとにある地区ごとで、何ミリ以上の雨が降つたらまず高齢者が次に一般の人や子供が避難するというようにあらかじめ段階ごとに決めておくものです。これは、よく市町村ごとのものがテレビの字幕で流れますが、それをより細かく地区ごとで決めるのです。このように、より細かくすること、近所の人同士が
一、もう五十ミリの雨が降つているので、すぐに避難しましよ。

と声をかけ合いやすくなり、今何ミリの雨が降っているか分からない人や、避難しようかどうか迷っている人が避難しやすくなります。また、日頃からの家に声をかけるか町内会で決めておくと、災害時に確実に声をかけることができず。私は、同じ市町村にいても場所によっては、避難しなくてはいけないレベルがちがうので、地区ごとにするべきだと考えたのです。

二つ目は、地震や大雨によって起こる土砂崩れに対する対策です。それは、植樹をすることです。山に生えている樹木の細根はすべり面を固定する機能があります。その天然の樹木が伐採により減少しているため、土砂崩れが増加しているのです。しかし、今の地球の森林の割合は五十年前とあまり変わりません。その理由は、人工林が増えているからです。でも、人工林を管理する人が年々減少して、人工林の根がしかりと地面にはばらないために、土砂崩れが増加しているのです。

私は、人間のために樹木を伐採して、人間に被害が及ぶ土砂崩れを引き起こしていることを知りました。人間は知恵を持って発展してきたので、自業自得だとは思わず、災害を克服したいものです。そして、そのために今私たちにできることは、やはり植樹をすることと植樹をした後の管理もきちんとするということだと思います。

そして何よりも土砂災害が起きた時に大切にしなければならぬのは、助け合うことですね。緊急時に、地域の人が一斉に避難所はこちですよ。などと声をかけてくれたら、その一言で命が助かるな、と思いました。

土砂災害は人間の責任で防ぐことも被害を最少限に抑えることもできます。今回、私が考えた二つの対策を実行するにもやはり、責任というものが大切となります。私は、人間の知恵を生かし、減災につながる責任のある行動が人間に求められていると考えます。